

田んぼダムだより

～創刊号～



◆発刊にあたって



緑の流域治水の具現化

新たな **緑**の芽吹き

令和2年7月豪雨により被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

被災直後、私は、数々の現場を訪れ、被災地の方々と意見交換を重ねてきました。

昨年12月には、世界かんがい施設遺産に認定されている百太郎溝や「田んぼダム」の現場にも訪れました。その際、土地改良区の方々が用水路の管理において、大雨の際には、事前に溝を空にして出水に備えるなど、自然環境と共生した取り組みが行われていることに感銘を受けました。

現在、県では国や球磨川流域市町村、住民の皆様と力を合わせ、命と清流を守る「緑の流域治水」に取り組んでいます。その中で、「田んぼダム」は、大きな役割を果たすと考えております。

まずは、令和3年から2年間、農家の皆様の協力のもと、「田んぼダム」の実証に取り組むとともに、安心して取り組めるよう制度を構築します。

熊本の自然豊かな恵みを享受し、大切なふるさとを守っていく、そうした思いを共有しながら、「誰ひとり取り残さない熊本づくり」を目指し、県政の課題に取り組んで参ります。

今後とも「田んぼダム」への取り組みに対し、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年(2021年)3月

熊本県知事

西野 豊

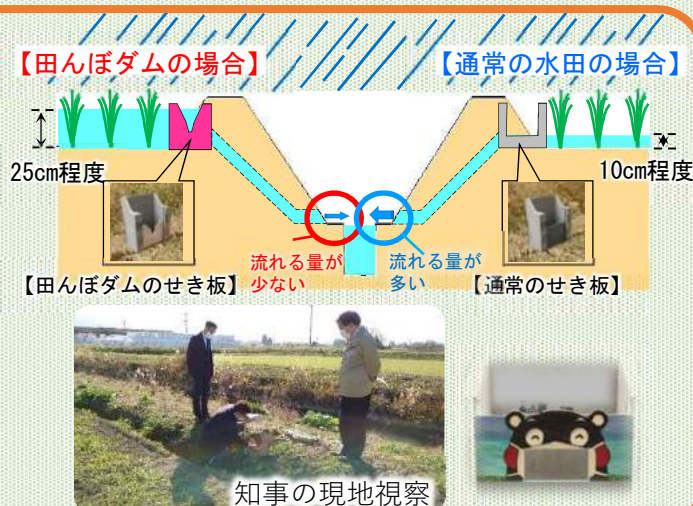
◆田んぼダムって何??

田んぼダムとは、大雨が降った時に一時的に雨水を水田に貯めることで、下流の洪水被害を軽減する取り組みです。

田んぼの排水口に専用のせき板を取り付けるだけで取り組むことができ、より多くの田んぼで取り組むことで効果を発揮します。

熊本県では初めての取り組みです。

今後、この「田んぼダムだより」を通して、取り組み状況や進捗状況を発信していきます。



◆南稜高校生から知事へ「せき板」を贈呈しました!

田んぼダム専用の「せき板試作品」を県立南稜高校に製作していただきました。3月25日には、総合農業科環境コースの2年生15人が県庁を訪れ、蒲島知事へせき板を贈呈しました。

知事からは、「皆さんのような若い世代の方々が関心を持って取り組んでくれたことに心から感謝します」との御礼が伝えられ、田んぼダムが人吉・球磨地域全体に広がることへの期待を示されました。



◆今後のスケジュール (予定)

- ・3月下旬～4月中旬…各モデル地区における地元説明会
- ・5月上旬…せき板配付
- ・5月下旬…田んぼの学校 (蒲島知事も出席予定)
- ・4月～ …田んぼダム実証実験 (特に梅雨、台風時期)



発刊元：熊本県農村計画課